平成21年度大学院生アンケート調査と「つがルネッサンス!」

「つがルネッサンス!」に活かされた大学院生のニーズ調査

平成22年度から展開中の科学技術振興調整費女性研究者支援モデル育成事業「つがルネッサンス!地域でつなぐ女性人才」この提案には、平成21年度に大学院生を対象として実施したアンケート調査の結果が活かされているのをご存じでしたか？　ご協力いただいた院生の方々に感謝するとともに、その一端をここでご紹介しましょう。

実施した調査について

大学院生が、性別や年齢等にかかわりなく、研究活動を活発に行うための支援ニーズを知るために平成21年度に実施したのは、「研究継続と活発化のための男女共同参画推進に関する調査」です。配布したアンケートは594部で、350部の回答がありました（回収率58.9%）。
回答の内訳は、修士課程が74%、博士前期課程が11.5%、博士後期課程が12%でした。専門分野別では、回答者の85.7%が「理系」大学院生でした。性別では、男性からの回答が67.9%、女性が31.8%で、大学院生全体の男女比率からみると、女性の回答率が高いといえます。

幅広い年齢層の人々が学んでいる

大学院の学生として幅広い年齢層の方々が学んでおり、学部卒業後に社会人経験をもつ学生も全体の34.1%ありました。全体の52.1%が25歳未満で、25～29歳が22.1%、30～34歳が11.5%、35歳以上12.1%でした。回答者の20%近くが有配偶者で、全体の14%が子どもを持ち、病後児保育等の必要も指摘されていることから、学びと育児を両立できる環境の整備も必要なことがわかります。

「専門を深めたい」が進学理由の第一位

大学院への進学理由では、修士課程・博士前期課程への進学理由で最も多かったのが「専門領域（テーマ）をより深めたい」で、全体の86.6%が肯定的な回答でした。
博士課程後期への進学理由では、「専門領域（テーマ）をより深めたい」と「研究者になりたい」という2つの理由が明確に現れていました。

修士課程は非研究職希望 博士課程は大学以外の研究職が第一位

大学院修了後の進路についてみると、修士課程・博士前期課程では、非研究職が42.0%、研究職が30.9%、学校教員11.8%、博士課程（後期）への進学希望者は10.3%です（図1）。博士課程・博士後期課程では、研究者の道を希望する傾向がより強いのですが、大学以外の公務員や企業等での研究職の希望者が、大学教員を上回っています。非研究職を希望する回答が24%あったことも特徴的です（図2）。

図1　修士課程・博士課程前期終了後の希望進路（n=262）

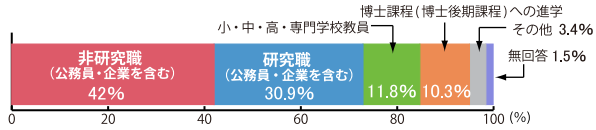
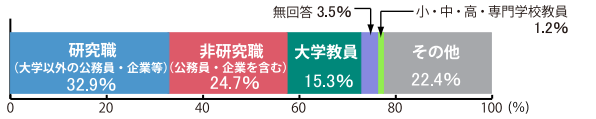
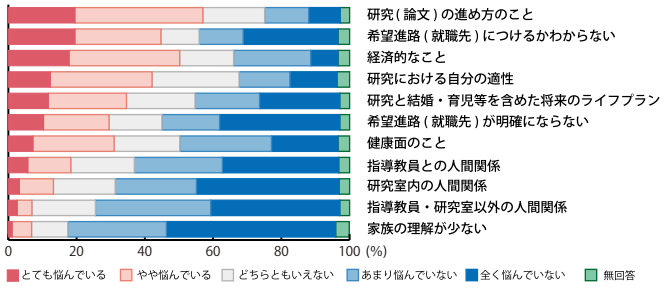


図2　博士課程・博士課程後期終了後の希望進路（n=66）



研究生活の悩みと必要な支援は？

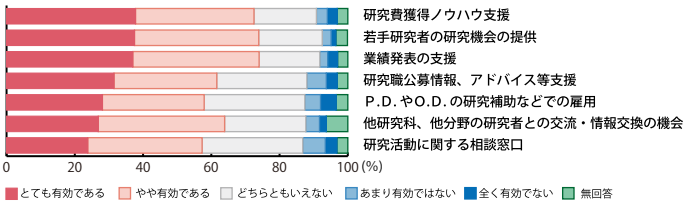
図3　研究生活の悩み等（n＝349）



研究生活についても聞きました。研究に意欲を持って取り組めている学生が60%を超え、研究の上では指導教員や研究室の先輩や同僚が頼りにされる傾向があります。研究生活の悩み等で、「研究(論文)の進め方」が最も多く、「経済的なこと」や進路への不安などが続きます。指導教員との関係や研究室内の人間関係などの悩みも15～19%あることから、研究室以外の関係作りを含めた支援を検討する必要があるといえます。
（図3）

現在の研究生活で有効と思われる支援については、経済面の支援、進路・就職相談窓口の設置、健康面の支援などの順に多くの回答がありました。大学の支援として有効と考えられているのは、研究費獲得ノウハウ支援、若手研究者の研究機会の提供、業績発表の支援などでした。　（図4）

図4　研究活動に有効と思われる大学の支援（n＝349）



「つがルネッサンス!」に反映されたことは？

弘前大学では、すでに学内保育園をもち、「弘前大学特別研究員制度」や独自の奨学金制度などを進めています。それに加えて「つがルネッサンス!」では、研究スキルアップができる支援、学部や世代を超えたネットワークづくりを考えました。アンケートで希望があった、女性用トイレや更衣室などの環境整備等についても、担当理事に要望を伝え、検討を要請しています。今後は「つがルネッサンス!」ホームページに、学内外の支援制度や助成金情報等がまとめて得られるページも開く予定です。どうぞご活用ください。